

点字図書書き方形式

愛媛県視聴覚福祉センター
(2015.5.15)

1 巻数のまとめ方

1. 巻数は原本を単位としてまとめる。したがって原本が分冊されている場合には、通し巻数とはしない。
 - ・原本で、上・中・下3冊の図書が、点訳書で、上・中・下、各5巻になった場合、全15巻とするのではなく、(上)全5巻、(中)全5巻、(下)全5巻とする。
2. 1巻の紙数は、標題紙(とびら)・目次・奥付などすべてを含めて50～80枚(100～160ページ)程度にまとめる。
3. 原本が点訳書で何巻にもなる場合、章または節で分冊することが望ましい。章または節の途中で分冊するときは、適当な段落を選び、次の巻の始めにその文の属している見出しを再び書き、点訳者挿入符で続きであることを明記する。
4. ファイル名は次のことに注意する。
 - ・ファイル名の中にスペースを入れない。
 - ・同一原本の中で同じファイル名を用いない。(原本が「上、下」あるいは「1巻、2巻」のように分かれている場合は注意が必要)

EHIME1 (○) EHIME-1 (○) ehime_1 (○) 愛媛(上)1 (○)
えひめ1 (○) エイムB-1 (○) ehimehukushi-1 (○) ehime■1 (×)

2 標題紙の書き方(25～28ページ)

標題紙は、全体的に文字をほぼ中央揃えに配置し、原本標題紙に記載されている事項を基準に次の情報を記入する。

1. 著者表示(著者・作者・编者・訳者など)
著・作などの文字も含めて原本のとおりとするが、著者・訳者などが多数の場合(3人以上)は、代表一人を書き、○△他と「ホカ」を補記する。
また、编者などで1行に入りきらない長い名称の場合は、2行目は二マス下げる。

2. 書名・副書名・叢書名など

標題紙・奥付に記載されている該当事項をすべて記入する。(書名・副書名等が判別しにくいときは、奥付やサピエ図書館・国会図書館などの書誌を参考にして書く。)

「書名」と「副書名(書名とは行を改め、前後に棒線を付ける)」は内枠内に

著者表示
書名 — 副書名 — 第○版
(叢書名)
第○巻 (全○巻)

愛媛県視聴覚福祉センター

書き、複数行になる場合は 1 行目と二マスの差を付けて 2 行目以下を書く。なお、副書名は任意な位置から書き始めてよい。

「叢書名（シリーズ名）」は書名枠の下に第 1 カッコで囲んで書く。ただし、文庫・〇〇ブックス・新書・選書など、出版社が一定の判型で定期的に刊行するものは原則として省略する。

・原本に日本語書名とは別に英語書名等が記載されている場合、その点訳は自由とする。

3. 巻数表示

その点訳書が、全何巻中の第何巻目にあたるかを、「ダイ・:1 カン」「:ゼン□・:4 カン:」のように表示する。

ただし、全 1 巻の図書については「:ゼン□・:1 カン:」とだけ表示する。

4. 製作館名

愛媛県視聴覚福祉センター

3 目次の書き方（29・30ページ）

1. 目次は用紙を改め必ず標題紙の直後に入れる。
2. 点訳書に記入する目次の内容は、その 1 分冊中に含まれている部分だけとする。また、原本に目次がない場合でも必要に応じて目次を作ることができる。
3. 目次は 1 行目（9 マス目）に「モクジ」と書き（書名及び飾り付きの目次の場合もただ「モクジ」とだけ書き）、見出しはその段階に従って書き出し位置に変化をもたせる。最大でも書き出し位置が 5 マス目までに納まるよう工夫する。
4. 見出しが 1 行に書ききれない場合は、本文見出しの書き方に準じ、行末が数符の位置にかからないようにする。
 - ・ページ数の数符は行末から 4 マス目（29 マス目）。
5. 見出しとページ数の間は②の点や③の点を打ち、その前後ろは一マスあけとする。見出しとページ数の間が二マス・3 マスの場合はマスあけにし、4 マスの場合は②の点を二マス入れるか空白にし、間が一マス以下になる場合は、次行の 1 5 マス目から点線を書いてページ数を入れる。
6. 小さい見出しが、改行などしないで詰めて書かれている場合、見出しはすべて（原本にページ数がない場合も含め）改行して書き、ページ数を入れる。
7. 原本のレイアウトで見出しの間があいていても点訳書は行をあけないで書く。
8. 見出しが 2 行以上になり、そのページに入りきらない場合は、見出し全部を次のページに書く。

* 目次と本文の見出しが異なる場合は、本文の見出しを優先してよい。

* 点訳書凡例・著者紹介は、原本になくても目次に入れる。

4 まえがき・序文などの書き方 (31ページ)

1. それぞれページや用紙を改めて書く。
(下記の下線のついているものは必ず用紙を改める。)
2. まえがき・序文・献辞・凡例などは、第1巻の目次のあとに入れる。それらの記載順序は原本に従い、書き出し位置は原本に則したマスあけとする。なお、献辞は1行・3マス目から書きはじめる。
3. あとがき・解説などは、最終巻の本文の後ろに入れ、本文と通しページにする。
4. 初出一覧・参考文献などは、原本の形式に従って書くことを原則とする。
5. 著者(訳者)略歴(紹介)は、原本によって奥付のページ・ブックカバーなど、記載位置が異なるが、点訳書の最終巻の巻末(奥付の前)1行目(7マス目)に「チョシャ□ショーカイ」として書く。
6. 点訳書独自の凡例や留意事項がある場合、点訳書全巻に影響を及ぼす凡例は、「点訳書凡例」として第1巻目の目次の直後に入れる。その場合、用紙を改め、1行目(9マス目)に「テンヤクショ□ハンレイ」と書く。なお、点訳書の中の特定の箇所だけに関する項目の場合は、その箇所で点訳者挿入符を用いて書いてもよい。

5 奥付の書き方 (25～28ページ)

奥付は用紙を改めて書き、各巻に付ける。1行目(9マス目)に「オクヅケ」と書き、原本奥付を先に書く。

1. 原本奥付に記載されている内容のうち、次のものを、下記「奥付書き方形式」(基本)に従って書く。なお、項目(カタカナ表示) **以外は原本に** 則した書き方とする。
 - ・書名・副書名・叢書名など(書名と副書名を棒線をつなぎ、副書名のあとを二マスあけて、叢書名を第1カッコで囲んで書く。)(標題紙・奥付に記載されている該当事項をすべて記入する。)
 - ・著者表示(著者・作者・編者・訳者)
 - ・初版と最新版(刷)の出版年月日(刷はズリと書く)
 - ・原本出版社、郵便番号(ユ一と書く)・住所・電話番号(複数の場合は適宜)
 - ・その他(ホームページアドレス・印刷所・定価・ISBNなど)(自由)*必要な情報は、記載位置(標題紙の裏やブックカバーなど)にかかわらず原本奥付に書いてよい。
2. 原本奥付のあとに点訳書に関する奥付を記入する。
原本奥付と区別するため線を引き、点訳者名・校正者名(全員)のみを記入する。
(その他必要事項は愛媛県視聴覚福祉センターで入力する。)

奥付書き方形式（基本）

□□□□□□□□オクヅケ

□□ショメイ …□書名□…□副書名□□::叢書名::の順で続けて書く。

□□チョシャ …□著者名（複数名の場合、その間を二マスあけ続けて書く。）

□□ヤクシャ …□訳者名（複数名の場合、その間を二マスあけ続けて書く。）

□□ハッコウ …□（複数ある場合、初版と最新版を書き、初版と最新版の間は二マスあけ続けて書く。○○日発行とある場合、発行は書かない。）

□□ハッコウジョ …□発行所名

□□ユー□郵便番号□□住所

□□デンワ …□電話番号

□□□□□□□□……………□□□□□□□□

□□テンヤクシャ …□点訳者名（複数名の場合、その間を二マスあけ続けて書く。）

□□コーセイシャ …□校正者名（複数名の場合、その間を二マスあけ続けて書く。）

*それぞれの項目で1行に入りきらないときは、改行しないで続けて書く。

6 ページの付け方（30～32ページ）

1. ページ数は必ず各巻ごとにまとめ、全巻通しページとはしない。
2. 目次は、1枚の場合はページ付けを省略してもよいが、2枚以上になる場合は「モク1 モク2 モク3…」のように（28マス目から）「モク」を前置する。
3. 凡例・献辞・まえがき・序文などは、下がり数字を用いて本文のページと区別する。1枚で終わる場合でも下がり数字のページ付けは省略しない。まえがきなどが本文の内容と連続性が強い場合は、本文と通しページとする。
4. あとがき・解説などは、本文と通しページとし、奥付にはページ付けは不要である。なお、パソコン点訳で自動的にページが入る場合は、偶数ページのページ付けを消す必要はない。
5. 目次と下がり数字のページは、用紙替えのためにデータ上の偶数ページが空白になるときもページ付けをする。

7 本文の書き方（32ページ）

1. 本文は用紙を改めて1ページとし、1行目に見出しを書く。
2. 見出しと見出し・見出しと本文の間は、行あけをしないで書く。
3. 見出しの途中でページを替えたり、見出しだけを最終行に書くことはせず、次のページにその見出し全部を移して書く。
4. 見出しが変わる場合は、前の本文と見出しの間を1行、もしくは2行あけたり、線を引いたり、その線の次の行をあけたり、原本に応じて最適な方法をとる。な

9 出典表示の書き方

著者や出典を表す語句の記載位置は原文に従うが、見出しや引用文、あるいは本文との区別を明らかにするよう書き出し位置に配慮する。なお、2行以上になるときは、2行目以下を1行目の書き出し位置と二マスの差をつけるか、1行目と同じ位置に揃えて書く。

*行末に残すマスの数は二マスにこだわる必要はない。

.....
~~~~方法だった。み空・み吉野、た走る・た弱女……  
〔『岩波現代短歌辞典』から〕

ホーホーダッタ●●ミソラ・□ミヨシノ :□タバシル・□  
タオヤメ□・・・  
□□□□●● :..イワナミ□ゲンダイ□タンカ□ジテン.. : カラ●●  
.....

~~~~だからカナは、この場合、すぐれた文字だと言えるのである。  
〔田中克彦著 『名前と人間』から〕

ダカラ□カナワ :□コノ□バアイ :□スグレタ□モジダト□
イエルノデ□アル●●
□□□□□□□□□□□□□□□□●● :タナカ□カツヒコ□チョ
□□□□□□□□□□□□□□□□ :..ナマエト□ニンゲン.. : カラ●●■
.....

~~~~~楽しめるようにしたいものである。  
〔福島智著 『渡辺荘の宇宙人—指点字で交信する日々—』から〕

タノシメルヨーニ□シタイ□モノデ□アル●●  
□□□□□□□□●● :フクシマ□サトシ□チョ□ :..ワタナベソーノ  
□□□□□□□□□□□□ウチュージン□・・・□ユビテンジデ  
□□□□□□□□□□□□コーシン□スル□ヒビ□・・・ : カラ●●■ ■ ■  
.....

## 10 写真・イラストの書き方

写真やイラストは、次のように処理をする。

1. 写真やイラストが何の説明もなくカットとして使われているような場合は省略し、必要があれば点訳書凡例で省略したことを明記する。
2. 写真やイラストにタイトルや説明文が付いている場合は、段落等の適切な箇所に区切り線を使うなどして本文と区別した上で、タイトルや説明文を書く。その際、点訳者挿入符で囲んで「写真説明」などと付け加える。
3. 写真やイラストに何の説明もない場合でも写真やイラストが本文を読み進む



上で省略できない場合は、点訳者挿入符で囲んだ説明文を入れる。その際、主観や感想が入らないように、客観的に、写っている事物、人物、背景などを説明するにとどめ、なるべく簡潔な文を心がける。

## 1 1 点訳書凡例

\*点訳書凡例は、次のような場合に入れる。

1. 歴史的仮名遣いで書かれた文や語句が現代文の中に挿入されていて、その部分を歴史的仮名遣いで点訳した場合
2. 主義として歴史的仮名遣いで書かれた現代文を点訳する場合
3. 文中注記符を付けた語句がある場合、その説明の記載位置
4. 小文字符を用いた場合
5. 欠字を表す「□」に伏せ字記号を用いた場合
6. 一般書の中に、数学・理科記号など、体系の異なる点字表記の中でも一般的でない記号を用いた場合
7. 図や表、グラフ、写真などの処理方法
8. 中国・朝鮮の固有名詞の読み方が不明で、日本での読み方や漢字の音読みなどにした場合
9. 原文の誤字・誤植と思われるが、断定できない場合で、原文を訂正して点訳した場合
10. 欄外見出しを付けた場合の記入方法
11. 索引を付けた場合の点訳の方法
12. 手を尽くして調べても固有名詞の読み方が不明で、やむを得ず推定読み、または音読みなどにした場合
13. 原本の一部を省略したり、内容の順序を入れ換えたりした場合
14. その他、その点訳書だけに通用する記号・符号を、点訳者が作って用いた場合など

\*上記 1. ～14. は、点訳書凡例ではなく、本文の中に点訳者挿入符で書く場合もある。また、「読み」に関する項目（8. 9. 12. ）については、十分な調査が前提になる。

\*点訳書凡例では、「墨字版」は「原文、原本」、「点字版」は「本書、点訳書、この点訳書」などと書く。

## 1 2 参照ページの書き方

- ・特に差し支えない場合は点訳書のページだけを入れる。（点訳書凡例で断ったり、ページを点訳者挿入符で囲んだりする必要はない。）
- ・巻数・ページ数を、⋮⋮⋮のように下がり数字を用いるなどする場合は、点訳

書凡例などで断る。

・点訳書ページとともに原本ページも入れる場合は、その入れ方や順序などを点訳書凡例などで断る。

### 1.3 索引の書き方

原本に索引が付いているときは、点訳書でも索引を作成することを原則とするが、すべての本で一律に点訳する必要はない。文中の語句や事項などを書き出している一般的な索引の場合は、本の種類や項目の内容、検索の必要性などを考慮した上で、索引が必要かどうか判断してよい。

作成する場合は、原本に準じて最終巻に入れるが、ページ数が多くなるときは別巻にすることもできる。索引は、点訳書の当該語句や事項の掲載されている巻数・ページ数・行数などをわかりやすく工夫して書き表す。

引きやすい索引を作るために、原本のレイアウトに準じるか、掲載内容すべてを書くかは考慮する。また、本文修正によりページのズレが生じるので最終確認を必ず行う。

.....  
「電子マネー」の語句が第1巻22ページと第2巻87ページに掲載されている例

デンシ□マネー□・・・□∴∴∴□∴∴∴

「クーリングオフ」の語句が第3巻59ページ7行目に掲載されている例

クーリング□オフ□・・・□∴∴∴∴∴∴

### 1.4 点訳資料製作における留意点

「より良い」点訳資料を「より速く」「より多く」提供するためには、次の点に留意する必要がある。

#### 1. 下読み・下調べの徹底

・点訳を想定しながら原文を下読みし、難読語（特に固有名詞）や疑問点・問題点などを抜き出し、下調べ表、あるいは墨点字を印刷した用紙に直接書き込むなどする。（「下調べ表」への記入については、各グループ内で決める）

#### 2. 見直しの徹底

見直しとそれに伴う修正が徹底していれば、不注意によるミスはずいぶん防ぐことができる。

・仮名印刷や仮名表示画面による見直しでは、ごく基本的な分かれ書きや切れ

続きの誤りを見落とすことが多くなるので注意を払う。

（「読み上げ機能」を利用するの一法）

・誤字・誤読・脱字・脱文等は仮名で読み直しを行っても、点字表記に関する部分（墨字表記ではきちんと表示されないレイアウトに関する部分や、記号・アルファベット等）は、必ず点字画面での確認を行う。（入力方法が6点以外の場合は、特に注意が必要）

・長音・タ行の連濁・同音の連呼・固有名詞の仮名遣い、数字と仮名の書き分け、外文字と外国語引用符の使い分けの確認。

・記号類の使い方・前後の分かち書き・記号間の優先順位などに注意。

・行替え・ページ替えの箇所・文の書き始めや段落で行頭を二マスあけてあるか、見出しの大きさによる行頭のマスあけが正しくされているかの確認。

（「校正」のマスあけチェック機能を利用する）

・点訳者挿入符は、必要な箇所にだけ入っているか、説明が簡潔で分かりやすいかなどを見る。

・ルビの扱い（促音など同じ大きさになっている小文字など）や誤植の扱いは適切に処理されているかの確認。

### 3. 誤字

パソコン画面を見ながら行う校正では、誤字があっても前後の文脈で見落とすってしまう場合も多いので、校正では文をスラスラと読んでしまわないこと。

### 4. 脱字・脱語・脱文等

助詞・助動詞の脱字・余字・記号等の脱落は見落としやすいので注意。特に濁点と読点は漏れたり、余分に付いたりするケースが多く見られる。また、似たような語が、隣り合う行の同じような位置に出てきたときは、行の脱落や重複に注意。

### 5. 誤読

・思い込みで読んでしまわないように注意する。

・時代とともに一般的な読みが変わってくる語もあるので国語辞典で調査することが大切。

### 6. パソコン点訳ソフトの機能を十分習得すること

・点字入力にあたっては、点字編集システム（BES）の機能を正しく使いこなすことが前提で、マニュアル（ユーザーズガイド）を参考に、それぞれの機能を適切に使用すること。

・文書の保管、上書きなどを確実に行う。

・バックアップファイルは必ず作成する。（データの消滅・パソコンの故障等もあり得るので「FD・USB等」と「ハードディスク」の両方に保存するのが望ましい。）

・「改行マーク」と「改ページマーク」を適切に付けるように注意する。

改ページマークの前には、改行マークを入れない。改行マーク・改ページマークの前に余分なスペースは入れない。

見出しが最下行にきたり複数行になって、その途中でページが変わるときなどに、次ページに見出しを移動させる場合は、改ページマークではなく改行マークを入れる。

- ・ ページ番号付加機能を正しく活用する。（標題紙や奥付にはページ数が入らないように注意する）
- ・ 検索・置換・コピー・移動・削除・文書結合・分割などの機能を有効に活用する。

## 1.5 点訳資料完成までの流れ

「点訳」終了→

### 1. 校正

- ・ 校正は、最低2回（一次校正・二次校正を別校正者により）行う。
- ・ 各校正者ごとにマーカーの色を変える。（鉛筆は不可）
- ・ チェックは大きくはっきり付ける。
  - 続ける（－）・分ち書きをする（|）等、また、見落としやすいものには右側の余白に○印を入れるなどし、指摘箇所を明確にする。（その方法は各グループ内で決める。）
- ・ 疑問に感じた箇所は必ず指摘する。
  - 読みについては、文脈にあった読みをしているか注意し、どちらの読みでもよい場合は、点訳者の読みを尊重するが、点訳者の読みに一貫性がない場合は機械的に統一した読みがよいかどうかを十分注意してチェックする。
- ・ 1タイトルの分割校正は避ける。

### 2. 修正

- ・ 指摘箇所を原本と照合のうえ慎重に修正する。
- ・ 校正者の指摘が正しいかどうか熟考し、疑問点は校正者等と解決した上で、修正する。
- ・ 修正によって行が変わってくる場合があるので、次の点を確認する。
  - 見出しが一番下の行にきていないか
  - 見出しの前の行あけが1行目にきていないか
  - 目次と本文のページがずれていないか
  - 参照・索引ページなどがある場合、該当するページが変わっていないか
  - 情報処理用点字の行継続符や点字数学・理科記号の行末のつなぎ符、外国語で分綴のために用いたハイフンなどの位置は適切か
  - 奥付にページが入っていないか、改ページマークは適切か、など

### 3. 完成データ提出

「FD・USB等」とは別送で、「原本」と「使用した辞書名、固有名詞などの調査の有無、疑問点・問題点等を記した下調べ表」「点訳概要」などを提出。添付ファイルの場合は、図書名・点訳者名・校正者名・ファイル名・ページ数を記入。

なお、データは、受け入れカードが届くまで保存しておく。

### 4. 最終校正→点検→完成

最終校正者が画面校正をし修正する。\_\_\_\_（誤りのある行を“見出し指定”のように色変換する。\_\_\_\_）→センターで修正箇所(point)の点検→完成→返却

なお、質問等の回答は、原本返却がある場合は書面にて、ない場合はデータ(FD・USB・メール)にて行う。

### 5. 点訳資料の返却

訂正済みデータの指摘箇所(色変換部分)を、訂正前のデータ(または一・二校時の墨点字用紙)と照合し、問題がなければFD等を初期化して次の点訳に使う。なお、訂正済みデータに問題があった場合は速やかに連絡をする。

## 1.6 その他

1. 全巻を通し、標題紙・奥付・目次・本文など書き方を統一する。

2. 「目次終わり」「第1巻終わり」「第2巻につづく」等、原本に記入されていないことは書かない。

3. 用紙替えの箇所は奇数ページ(パソコンのページ)で始める。偶数ページになるときは、改ページキーで空白ページを作る。

4. 判断に迷う分ち書き等について

・基本的に「点字の手びき」「点訳のてびき」に従っていれば良い。微妙な点については、各点訳書で統一が取れていれば良い。(各グループで細かなルールを決めておくと点訳・校正がスムーズに行く。)

・「点字の手びき」「点訳のてびき」「点訳ナビゲーター」と「点字表記辞典」の内容が異なる場合は1タイトル中で統一すればどちらを採用してもよい。

・接頭語・接尾語は、「点字の手びき」「点訳のてびき」「点字表記辞典」等に掲載されている例以外は、点訳者の考えとする。

・2拍以下の繰り返し言葉で、自立可能な意味の成分からなる繰り返し言葉なのかどうかははっきりしない場合、辞書に一語として掲載されていれば一続きに書いてもよい。

・一つの文の中に、カギ類で囲んだ「文」と「語句」が混在して並列する場合、一マスあけにするか、二マスあけにするかは点訳者の考えとする。

・現代文に出てくる「候、奉る」などは、独立の動詞であれば前を区切って書き、動詞の連用形に続いている場合は一続きに書くことを原則とする。

《例》

実現□いたしたく□候      申すべく□候      お願い□奉る

存じ奉り候      参り候      願ひ上げ奉り候

・ 中点の扱いに迷う場合は原本のとおりとする。(特に外国語などでマスあけに置き換えられるかどうかの判断が難しいとき、等々)

・ 「アイルランド」「グリーン□ランド」などの「ランド」は、「点字の手びき」31 ページ 3、39 ページ 4【備考 1】に準じる。

・ 「○○○1」は、一語として使い慣れている語(日本一・世界一・三国一)及び省略語(朝一など)だけ続けて書き、その他は区切って書く。なお、助詞が後ろにくる場合も、同じ扱いをする。

《例》

世界∴∴の      市内□∴∴      クラス□∴∴

5. 詩や俳句・短歌などの作者名は行末近くを書くことを原則とする。ただし、歌や句に続けて書く場合は、その間を二マスあけて書く。

6. レイアウトについて

・ 書き方に幅のあるレイアウトに関する部分は、原本に応じて最適な方法で点訳する。

・ 1冊の本の中で矛盾のない限り、できるだけ点訳者のレイアウトを尊重する。

・ レイアウトが難しそうな場合は、あらかじめ経験豊富な点訳者と相談しておく。

・ 原本のレイアウトと必ずしも一致させる必要はない。(手紙や詩や系図など)

詩歌・戯曲などの書き方例

1. 詩 (手びき 69ページ)

.....  
おかあさんのたまごやき

あだちけいいち

僕のおかあさんは  
たまごやきが  
とってもじょうずだよ  
たまごをひっくりかえすとき  
おかあさんもいっしょに  
とびあがるんだよ  
そうすると  
あまくてふわふわのたまごやきが  
できるんだよ

- オカアサンノタマゴヤキ
- アダチケイイチ■■■
- ボクノオカアサンワ
- タマゴヤキガ
- トツテモジョーズダヨ
- タマゴヲヒックリカエストキ
- オカアサンモイッショニ
- トビアガルンダヨ
- ソースルト
- アマクテフワフワノタマゴヤキガ
- デキルンダヨ

.....  
山のあなたの空遠く  
「幸」住むと人のいう。  
噫、われひとと尋めゆきて、  
涙さしぐみ、かえりきぬ。  
山のあなたになお遠く

(カール・ブッセ)

- ヤマノアナタノソラトオク
- ..サイワイ..スムトヒトノイウ::
- アア :ワレヒトトトメユキテ :

□□□□ナミダ□サシグミ :□カエリキヌ❖  
□□□□ヤマノ□アナタニ□ナオ□トオク  
□□□□..サイワイ..□スムト□ヒトノ□イウ❖  
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□❖:カール□ブッセ❖■ ■

一 春高樓の花の宴  
めぐる盃影さして  
千代の松が枝わけ出でし  
昔の光今いずこ

(土井晩翠)

❖1 □□ハル□コーローノ□ハナノ□エン  
□□□□メグル□サカズキ□カゲ□サシテ  
□□□□チヨノ□マツガエ□ワケイデシ  
□□□□ムカシノ□ヒカリ□イマ□イズコ  
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□❖:ドイ□バンスイ❖■ ■ ■

夏の朝

日が上る。  
どこかで、せみが鳴きだす。  
しんじゅのようなつぶが一つぶ、  
朝顔の葉から落ちる。  
青い千代紙を張りつめたような空の色。  
このまま、アルバムに張り付けておく方法はないかなあ。  
(小学国語教科書から)

□□□□□□ナツノ□アサ  
□□ヒガ□ノボル❖  
□□ドコカデ :□セミガ□ナキダス❖  
□□シンジュノヨーナ□ツブガ□ヒトツブ :  
□□アサガオノ□ハカラ□オチル❖  
□□アオイ□チヨガミヲ□ハリツメタヨーナ□ソラノ□イロ❖  
□□コノママ :□アルバムニ□ハリツケテ□オク□ホーホーワ□  
ナイカナア❖  
□□□□□□□□□□□□❖:ショーガク□コクゴ□キョーカショカラ❖

茂作じいさん

茂作じいさんは、歯が1本もない。



茂作じいさんは、95才だ。  
 茂作じいさんは、1日家の前でおきをながめている。  
 ときどき、古ぼけた望遠鏡をのぞいては、  
 もごもご、何かつぶやいている。

(小学国語教科書から)

□□□□□□モサク□ジイサン  
 □□モサク□ジイサンワ : □ハガ□ : 1 ポンモ□ナイ :  
 □□モサク□ジイサンワ : □ : 95 サイダ :  
 □□モサク□ジイサンワ : □ : 1 ニチ□イエノ□マエデ□  
 □□□□オキヲ□ナガメテ□イル :  
 □□トキドキ : □フルボケタ□ボーエンキョーヲ□  
 □□□□ノゾイテワ :  
 □□モゴモゴ : □ナニカ□ツブヤイテ□イル :  
 □□□□□□□□□□ : ショーガク□コクゴ□キョーカショカラ :

老いた船

老いて朽ちた船に、思い出が乗っている。  
 それは重量のない積み荷 ——  
 日差しの中かの砂州、船首への波の口づけ、  
 真夜中の嵐の思い出と  
 語られることなく終わった物語が乗っている。  
 老いた船は覚えていた、暁の島影、マストに風が  
     めっぽう強かった岬、キールを失った  
 波高き海峡、星々、しじま、青い夜。

船が、陸地や荒れた大海や、  
 かれらを鍛えた風を忘れるなどと思っはならない。  
 デイヴィッド・モートン

□□□□□□オイタ□フネ  
 オイテ□クチタ□フネニ : □オモイデガ□ノッテ□イル :  
 ソレワ□ジューリョーノ□ナイ□ツミニ□...  
 ヒザシノ□ナカノ□サス : □センシュエノ□ナミノ□クチヅケ :  
 マヨナカノ□アラシノ□オモイデト  
 カタラレル□コト□ナク□オワッタ□モノガタリガ□ノッテ□  
 □□イル :  
 オイタ□フネワ□オボエテ□イタ : □アカツキノ□シマカゲ : □

□□マストニ□カゼガ  
 □□□□メッポー□ツヨカッタ□ミサキ：□キールヲ□ウシナッタ  
 ナミ□タカキ□カイキョー：□ホシボシ：□シジマ：□アオイ□  
 □□ヨル❖  
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□  
 フネガ：□リクチャ□アレタ□タイカイヤ：  
 □□□□カレヲ□キタエタ□カゼヲ□ワスレルナドト□  
 □□□□□□オモッテワ□ナラナイ❖  
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□  
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

河童と蛙

草野心平

るんるん るるんぶ  
 るるんぶ るるん  
 つんつん つるんぶ  
 つるんぶ つるん

河童の皿を月すべり。  
 じゃぶじゃぶ水をじゃぶつかせ。  
 かおだけ出して。  
 踊ってる。

□□□□□□カッパト□カエル  
 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□  
 □□ルンルン□ルルンブ：□□ルルンブ□ルルン：□□ツンツン□  
 ツルンブ：□□ツルンブ□ツルン：：□□カッパノ□サラヲ□  
 ツキ□スベリ❖：□□ジャブジャブ□ミズヲ□  
 ジャブツカセ❖：□□カオダケ□ダシテ❖：□□オドッテル❖

2. 短歌・俳句など (手びき 70 ページ)

シャンプーの香をほのぼのとたてながら微分積分子らは解きおり  
 (俵 万智『サラダ記念日』より)

□□シャンプーノ□カラ□ホノボノト□タテナガラ□ビブン□  
 セキブン□コラワ□トキオリ  
 □□□□□□❖：タワラ□マチ□□：..サラダ□キネンビ..：ヨリ❖





□□ゴナリル ● □ワタシワ □コトバデワ □イエナイホド □  
 オトーサマノ □コトヲ □オモッテ □イマス ●  
 □□コーディーリア ● □ :: ドクハク :: □□ワタシワ □ナント □  
 イオー :: □□ココロカラ □オツカエ □シタイノダケレド ::  
 □□リヤオー ● □ :: チズヲ □サシナガラ :: □□ヨク □イッタ :: □□  
 オマエニワ : □□コノ □キョーカイセンノ □ナカノ □リョーチヲ □  
 ヤロー :: □□ :: イカ □リヤク ::

遊び人のススメ

今井 この本の巻頭に仕事に対する私の考えを書いたんです。  
 永 ぼくね、仕事っていうことばが理解できていないんですね。  
 今井 私としては永さんは分刻みで動いている日本一忙しい人というイメージがありますが。  
 永 あそこで遊ばしてもらった、ここでも遊ばしてもらったという実感には溢れていますよ。

□□□□□□アソビニンノ □ススメ  
 □□イマイ ... □□コノ □ホンノ □カントーニ □シゴトニ □タイスル □  
 ワタクシノ □カンガエヲ □カイトンデス ●  
 □□エイ ... □□ボクネ : □シゴトッテ □イウ □コトバガ □  
 リカイ □デキテ □イナインデスネ ●  
 □□イマイ ... □ワタクシト □シテワ □エイ □サンワ □  
 フンキザミデ □ウゴイテ □イル □ニホン :: 1 □イソガシイ □  
 ヒトト □イウ □イメージガ □アリマスガ ●  
 □□エイ ... □アソコデ □アソバシテ □モラッタ : □ココデモ □  
 アソバシテ □モラッタト □イウ □ジッカンニワ □アフレテ □  
 イマスヨ ●

機音 (放送劇)

木下 順二

登場人物

座頭 頭目 盗賊たち 娘 解説者

音楽 (テーマ)

解説者 (音楽を下に持って) 深い山の中に一人で立っていると、谷川の  
 流れや松風の音に混じって、ある一つの音が耳の底に響いているのに気  
 がついたことはありませんか。それは何の音で、どうして聞こえてくる  
 のでしょう。



## 文書情報編集

項目の移動は Tab、Shift+Tab、マウスを使う。

Shift+F11 で、点字／カナ／かな／英字表示が可能なので読みやすい表示に切り換えるとよい。修正には、← →、上書／挿入、削除・後退キーが使用できる。

「原本タイトル」および「備考」欄は50マス用意されている。画面表示は2行に分かれているが、横一列につながっているものと考え、1行目の行末から2行目の行頭に文節が分かれて表示されても、そのままにしておく。

「原本タイトル」欄には書名だけを書き、「共著訳者等」欄には代表一人の名前を書く。「備考」欄は手書きの図が添付されている場合などに入力する。

出版社名が全部入らない場合は、単語単位での省略とする。

出版年は、最新版の初刷（第1刷）の西暦下2桁（平成26年→2014年→.:14）

分冊番号は、巻数（第2巻→.:2）

原本開始ページは、各巻の1ページ目が原本の何ページにあたるかを記入する。ただし、第1巻は原本開始ページを1とする。

点訳者は、愛媛県点字図書館の略称「エヒメ□テント」とする。

文書情報の入力が終わったら、改行キーまたは[保存終了]を押して点字編集画面に戻る。Esc キーまたは[破棄終了]を押すと内容を保存しないで編集画面に戻る。

※「文書情報のコピー」機能のある編集システムの場合、コピー元の文書情報を開き、「文書情報のコピー」を押し、次にコピー先文書の文書情報を開き、「文書情報の張り付け」ボタンを押すとコピーができる。（分冊番号・開始ページの変更をする）

文書情報画面

タブで前、次の項目の先頭にカーソルが移動します。  
原本タイトル、備考の入力欄の表示は2行ですが、一続きとなっています。

原本タイトル : [ヌノエノイノリ.....]

著者 : [モリナミコ.....]

共著訳者等 : [.....]

出版社 : [カブシキガイシャサンゴカン.....]

出版年 : [数14 ]

原本開始ページ : [数95 ..]

分冊番号 : [数2 ..]

点訳者 : [エヒメテント.....]

備考 : [エーデルデータアリ.....]

必要項目を入力して、改行キーを押してください

文書情報のコピー 文書情報の貼り付け 破棄 終了 保存 終了

## 「標題紙・奥付」「目次」「本文」などの書き方例

25ページ～32ページに、「標題紙・奥付」「目次」「本文」などの基本的な書き方を例示しました。

同じ項目のものでも書き方に幅を持たせています。

二通りの書き方例を示しているもの（行頭※印）は、どちらか書きやすい方で統一してください。

（1ページ「2 標題紙の書き方」～4ページ「7 本文の書き方」の内容と照らし合わせてご覧ください。）

なお、これらの書き方は、「それ以外の書き方が誤りである」という性格のものではありません。

書き方例を参考に、全巻の統一を保ち、原本の内容と点字の読みやすさを配慮しながら点訳してください。





山形・愛媛、慟哭の殺人ルート

2005年11月10日 初版発行

著者 金久保茂樹

発行者 津佐清

発行所 有楽出版社

東京都中央区京橋3-9-7

京橋ポイントビル3F

〒104-0031

TEL 03(3562)0671

発売所 実業之日本社

本社 東京都中央区銀座1-3-9

TEL 03(3535)4441 (販売)

振替00110-6-326

印刷製本 大日本印刷株式会社

乱丁、落丁本の場合はお取り替えします

©S.Kanakubo 2005 Printed in Japan

ISBN4-408-60345-7

レレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレ  
カナクボ シゲキ チョ  
ヤマガタ・エヒメ  
ドーコクノ サツジン ルート  
カキオロシ リョジョー ミステリー  
ダイ1カン  
|ゼン 4カン  
エヒメケン シチョーカク フクシ センター

・シリーズ名 (JOY NOVELS) …出版社が一定の判型で定期的に刊行するもの (標題紙では省略)

※郵便番号が住所の後

・ISBN…10桁

オクヅケ  
ショメイ… ヤマガタ・エヒメ、ドーコクノ  
サツジン ルート ― カキオロシ リョジョー ミステリー  
|"JOY NOVELS"|  
チョシャ… カナクボ シゲキ  
ハッコ― 2005ネン 11ガツ トオカ ショハン  
ハッコ―ジョー… ユーラク シュツパンシヤ  
ユー 104\_0031 トーキョート チューオーク  
キョーバシ 3\_9\_7 キョーバシ ポイント  
ビル 3F  
デクワ: 03 |3562| 0671  
ISBN… 4\_408\_60345\_7  
テンヤクシヤ… エヒメ ケンダロー  
コーセイシヤ… ホンマチ トオル マツヤマ ハナコ



えひめ 知の創造  
 愛媛大学の挑戦  
 2007年3月20日 初版 第1刷発行  
 編著 愛媛大学プロジェクトチーム  
 発行者 野本武男  
 発行所 愛媛新聞社  
 〒790-8511 松山市大手町1丁目12番地1  
 編集 愛媛新聞メディアセンター  
 電話 〔出版〕 089 (935) 2347  
 〔販売〕 089 (935) 2345  
 印刷・製本 アmano印刷

© 愛媛大学プロジェクトチーム 2007 Printed in Japan

ISBN978-4-86087-060-7 C1000

\*定価はカバーに表示してあります。

\*乱丁・落丁の場合はお取り換えいたします。

レレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレ  
 エヒメ ダイガク プロジェクト チーム ヘン  
 エヒメ チノ ソープ  
 エヒメ チノ ソープ  
 エヒメ ダイガクノ チョーセン  
 ダイ1カン  
 |ゼン 6カン  
 エヒメケン シショーカク フクシ センター

オクツケ  
 ショメイ… エヒメ チノ ソープ … エヒメ  
 ダイガクノ チョーセン  
 ヘンチョ… エヒメ ダイガク プロジェクト チーム  
 ハッコー… 2007ネン 3ガツ ハツカ ショハン  
 ダイ1ズリ  
 ハッコージョ… エヒメ シンブンシヤ  
 ユー 790\_8511 マツヤマシ オオテマチ  
 1チョーメ 12パンチ 1  
 ヘンシュエ… エヒメ シンブン メディア センター  
 デンク: |シヤッパン| 089\_935\_2347  
 |ハンバイ| 089\_935\_2345  
 ISBN… 978\_4\_86087\_060\_2  
 テンヤクシヤ… エヒメ ケンタロー  
 コーセイシヤ… ホンマチ トオル マツヤマ ハナコ

※電話番号…原本は ( ) 使用  
 ・ISBN…13桁







(第1巻の目次)

- ・見出しに点線を使用
- ※見出しとページ数の間が4マス

|                        |     |
|------------------------|-----|
| モクジ                    | 103 |
| テンヤクショ ハンレイ            | 104 |
| はじめに                   | 105 |
| ダイ1ショー エンゲン アラカルト      | 106 |
| 1 ビジンカ トーカワ ジョーキョー シダイ | 107 |
| …                      | 108 |
| 2 ミギモ ヒダリモ ビョーニンダラケ    | 205 |

(第2巻以降で、章の途中で分冊した目次)

- ・((ツヅキ)) …前の語に続ける
- ※見出しとページ数の間が4マス

|                      |      |
|----------------------|------|
| モクジ                  | 103  |
| ダイ1ショー カントクノゴクイ      | 104  |
| トーダノオーギ ツヅキ  ヅツ      | 105  |
| 4 オオノユタカノピッチングロン ヅツ  | 106  |
| エナツ ユタカニミチビカレテ       | 207  |
| マツイヒデキ、タツナミカズヨシ、オチアイ | 208  |
| ヒロミツ                 | 109  |
| ダイ2ショー メイセンシュタチノ     | 110  |
| ギジュツトカンセイ            | 211  |
| 1 マツヂカダイスケロンーヒガシオ    | 212  |
| オサムインタビュー            | 413  |
| メジャー1ネンメノシローサクゴ      | 414  |
| ユビサキニエイエンノカダイガ       | 585  |
| 2 キヨハラカズヒロウキョーダシャカ   | 746  |
| 4パンダシャトシテノジッセキ       | 817  |
| シキョーカトパットナゲ          | 928  |
| アトガキ                 | 103P |

(最終巻の目次)

- ・見出しとページ数の間が1マス以下

|                    |      |
|--------------------|------|
| モクジ                | 103  |
| 17 セイジデヨクツカワレルニホンゴ | 104  |
| ……………              | 105  |
| 18 クラシノナカノナンドクゴ…   | 396  |
| 19 コヨミデヨクツカワレルニホンゴ | 717  |
| ……………              | 718  |
| アトガキ               | 103P |

(その他の目次)

|                            |     |    |
|----------------------------|-----|----|
|                            | モク1 |    |
| モクジ                        |     | XX |
| ダイブ サセンモ ワルク ナイ            |     | XX |
| ダイ1ショー サセン サレタ オトコノ        |     | XX |
| イエ  ツヅキ                    |     | XX |
| 3. ワガママ ムスメト レンタイショー カッカ   |     | XX |
| ..... 1                    |     |    |
| オットノ ウデヲ ツカマエテ イタ オンナ .... |     | 1  |
| ヨケイナ コトヲ イッタ オトコ .....     |     | 11 |
| ホサカンヲ ワラワセタ オトコ .....      |     | 20 |
| ノゾイテ イタ オンナ .....          |     | 31 |
| ツメヨラレタ オトコ .....           |     | 43 |
| ツメヨッタ オンナ .....            |     | 52 |
| ハヤメニ シュッキン シタ オトコ .....    |     | 64 |
| ハナシアッタ オトコ .....           |     | 71 |
| ウデヲ トカレナカッタ オンナ .....      |     | 80 |
| ズラソート シタ オトコ .....         |     | 87 |
|                            |     | XX |
|                            |     |    |

|                         |     |     |
|-------------------------|-----|-----|
|                         | モク2 |     |
| ダイ2ショー サセン オトコノ コーフクナ   |     | XX  |
| ヒビ                      |     | XX  |
| 1. レンタイショー カッカワ シンバイショー |     | XX  |
| ..... 95                |     |     |
| タヨラレタ オトコ .....         |     | 95  |
| オマモリヲ モラッタ オンナ .....    |     | 104 |
| セツク サレタ オトコ .....       |     | 112 |
| パレードヲ ミタ オンナ .....      |     | 125 |
| ..... 141               |     |     |
| チョシヤ ショーカイ .....        |     | 141 |
|                         |     | XX  |

- ・見出しが2ページに渡っている
- ・見出しの種類が多い場合の書き出し位置
- ・見出しの途中で分冊（続きとなる見出しの1段階上の見出しを再掲する）
- ・原本目次には、第〇部と第〇章だけ記載
- ・小さい見出しが空白・中点・／などを使って、追い込みで書かれている
- ・原本の目次にページ数が付いてなく項目だけ

(第1巻 まえがき・序文など)

七 (昭和五二)年であり、老人大学としては比較的早い時期の設立といえるかもしれない。世田谷区老人大学の設立は一九七

はじめに

—

ハジメニ

セタガヤク ロージン ダイガクワ セツリツ

サレテカラ 20シューネンヲ ムカエル コトト ナッタ。

—

ハジメニ

セタガヤク ロージン ダイガクワ セツリツ

サレテカラ 20シューネンヲ ムカエル コトト ナッタ。

—

ハジメニ

セタガヤク ロージン ダイガクワ セツリツ

サレテカラ 20シューネンヲ ムカエル コトト ナッタ。

一九九六年二月

編著者 三浦 文夫

い。最後に、世田谷区老人大学の教育の原型とその思想は、初代学長の故福武直先生に負うところが大きい。本書を先生の墓前に捧げたい。

しななければならない。この機会に改めて謝意を表するものである。

七

シナケレバ ナラナイ。 コノ キカイニ アラタメテ シヤイヲ

ヒョースル モノデ アル。

サイゴニ、 セタガヤク ロージン ダイガクノ

キョーイクノ ゼンケイト ソノ シソーワ、 ショダイ

ガクチャーノ コ フクタケ スナオ センセイニ オウ

トコロガ オオキイ。 ホンショヲ センセイノ ボゼンニ

ササゲタイ。

1996ネン 11ガツ

ヘンチョシヤ ミウラ フミノ

八

P

P

・「はじめに」の書き出し位置 (本文の一番大きい見出しに合わせる)

- ・原文は、本文と日付の間に空行 (行あけしない)
- ・偶数ページが空白 (ページを付ける)

序章 世田谷区老人大学とは

1 「老人」大学か、「高齢者」大学か

この書物は世田谷区老人大学を中心に老人の福祉と教育の問題を考えるものであるが、本論に入る前に、用語上の問題として老人大学が高齢者大学(教室、学級)かについて最初にお断わりをしておきたい。

●「オールド・ピープル」をめぐる議論

ある種の言葉がいつの間にか本来の意味を越えて、一定のイメージをもつ用語として取り扱われ、その言葉が思わぬ意味で受け止められる例は、最近ますます多くなってきたようである。

1

ジョジョー セタガヤク ロージン

ダイガクワ

1 ロージン ダイガクカ

コーレイシャ ダイガクカ

コノ ショモツワ セタガヤク ロージン ダイガクワ

チューシンニ ロージンノ フクシト キョーイクノ モンダイヲ

カンガエル モノデ アルガ、ホンロンニ ハイル マエニ、

ヨーゴジョーノ モンダイト シテ ロージン ダイガクカ

コーレイシャ ダイガク|キョーシツ、ガツキュー|カニ

ツイテ サイショニ オコトワリヲ シテ オキタイ。

オールド ピーブルヲ メグル ギロン...

アル シュノ コトバガ イツノマニヤラ ホンライテキニ

モツテ イル イミヲ コエテ、 イッテイノ イメージヲ モツ

ヨーゴト シテ トリアツカワレ、 ソノ コトバガ オモワヌ

イミデ ウケトメラレル レイワ、 サイキン マスマス オオク

ナツテ キタヨーデ アル。

4 老人大学の運営

1

ダイブ ローゴノ カノーセイノ

ツイキュー ー ロージンノ ショーガイ

キョーイク

ダイ2ショー セタガヤク ロージン

ダイガクノ アユミ|ツツキ|

4 ロージン ダイガクノ ウンエイ

セタガヤク ロージン ダイガクノ ゲンキョーワ、

イカノ ジンイン コーセイ、カイギ、ギョージ トーヲ

チューシンニ ウンエイ サレテ イル。

コーシ ジンエイ

ガクチャー ミウラ フミオ、カク コースベツ

|シャカイ、フクシ、セイカツ、ブンカ A、ブンカ

B| ガクシュー センニン コーシ 10メイ、ケンコー

ダイク センニン コーシ 4メイノ ケイ 15メイデ

コーセイ サレテ イル。

・続きとなる見出しの1段階上の見出しを再掲  
※小見出し(左…小見出し符 右…4マスあけ)

●講師陣容

学長三浦文夫、各コース別(社会、福祉、生活、文化A、文化B)学習専任講師一〇名、健康体育専任講師四名の計一五名で構成されている。

(第一部 老後の可能性の追求―老人の生涯教育 第2章 世田谷区老人大学のあゆみ)の続き)

世田谷区老人大学の現況は、以下の人員構成、会議、行事等を中心に運営されている。



## 単位記号の書き方

1. アルファベットで始まる単位は、外字符 (⑤⑥の点) を前置し、大文字にはそれぞれ大文字 (⑥の点) を前置する。
2. アルファベットで始まる単位に含まれる漢字や仮名は第1カッコ (:~:) で囲む。また、第1カッコの閉じまでをアルファベットの単位の続きとして扱い、あとに助詞・助動詞が続く場合は閉じカッコの後ろを一マスあける。

10m/秒の速さ [:: · : : : : : : : □ノ□ハヤサ]

3. 漢字や仮名で書き表された単位は、複合名詞の切れ続きに準じて書くことを原則とする。

10メートル每秒 [:: · : : : : : : : □マイビョー]

160水銀柱ミリメートル [:: · : : : : : : : □スイギンチュウ□ミリメートル]

3キログラムウエイト [:: · : : : : : : : □ウエイト]

1香港ドル [:: · □ホンコン□ドル]

### 長さ

|                   |                  |
|-------------------|------------------|
| ::: k m (キロメートル)  | ::: m (メートル)     |
| ::: c m (センチメートル) | ::: m m (ミリメートル) |
| ::: μ (ミクロン)      | ::: n m (ナノメートル) |

### 面積

|                                  |                             |
|----------------------------------|-----------------------------|
| ::: k m <sup>2</sup> (平方キロメートル)  | ::: m <sup>2</sup> (平方メートル) |
| ::: c m <sup>2</sup> (平方センチメートル) | ::: h a (ヘクタール)             |
| ::: a (アール)                      |                             |

### 体積

|                                  |                  |
|----------------------------------|------------------|
| ::: m <sup>3</sup> (立方メートル)      |                  |
| ::: c m <sup>3</sup> (立方センチメートル) |                  |
| ::: k l (キロリットル)                 | ::: l (リットル)     |
| ::: d l (デシリットル)                 | ::: m l (ミリリットル) |
| ::: c c (シーシー)                   |                  |

### 質量・密度

|                                         |             |
|-----------------------------------------|-------------|
| ::: k g (キログラム)                         | ::: g (グラム) |
| ::: m g (ミリグラム)                         | ::: t (トン)  |
| ::: k g / m <sup>3</sup> (キログラム毎立方メートル) |             |

### 温度

|                  |              |
|------------------|--------------|
| ::: °C (度 [セ氏度]) | ::: K (ケルビン) |
|------------------|--------------|

### 音

|                |                  |
|----------------|------------------|
| ::: d B (デシベル) | ::: p h o n (ホン) |
|----------------|------------------|